

議会報告『市民との意見交換会』 記録

- ◇日時 平成28年2月12日(金) 19:00~20:30
- ◇会場 殿原町公民館
- ◇対象 在田あいあいまちづくり協議会理事会 参加数: 20名

1. 開会・司会あいさつ 織部 徹 議員
2. 議長あいさつ 三宅利弘 議長
3. 団体代表あいさつ 吉田 協議会会長
4. 出席者自己紹介 参加者全員から自己紹介(傍聴者を除く)
5. 議会報告(平成27年9月・12月定例会) 井上芳弘 議員

《質疑・応答》

- ・マイナンバーカード発行の進捗、カードの発行状況は。
→カード申請は昨年末から受付中だが、具体的なカード発行数等は把握していないので後日説明する。
 - ・カードに個人情報蓄積されていくことになれば情報管理はできるのか、先進国も問題が起きていて危惧されるし情報保護は完全に守られるのか。
→議案審議を報告したが行政はセキュリティに万全を期すことが説明され、最大最高の情報管理を確立すると答弁を受けている。
 - ・インフラ整備、下水道工事等で生じた段差等は修繕してくれるのか、即応してもらえないのか。
→区長を通して担当者に要望してほしい。市役所は対応している。
6. 意見交換 『あいあいまちづくり協議会』の設立経過 協議会の吉田会長より説明
- ・資料として『あいあい便り』『設立準備委員会事業報告』『フェスティバルちらし』『協議会組織図』『27年度事業報告』配布。
 - ・ふるさと創造会議結成の呼びかけを行政から受けたが、区長等の役員負担が増大する懸念から拒否感も強い中、結成しても短期で有名無実化させないためにも必要な時間をかけ協議を重ねて結成に至った。各町区長に相談協力をお願いし、各町1名の代表者を選出してもらって検討会・準備委員会の会議を開催した。区長さん方の協力がなければ進まなかつし全世代に浸透しなかったと考える。はつらつ委員会等との連携の中で開催したフェスティバルも好評であり、今後も楽しく交流を図りながら安心安全な地域づくりと住みよいまちづくりに取り組んでいく予定である。
→苦労は組織づくり、区長さん方の協力が最重要とのこと参考にさせていただく。
 - ・創造会議や地方創生も地域の政治力が必要。誰が何をどうするのが問題。いきいき委やはつらつ委の福祉活動と混同しても駄目だ。議論が重要で、参加数600名を越えたフェスティバルは住民交流の出発点として成功したと思っている。
→学校問題で協議会を結成した宇仁とは経過が違う。相談協議の体制、住民からの意見集約の工夫、特に区長からの推薦代表の徹底等がすごい。若い世代への継承する工夫はあるのか。
 - ・多面的な宇仁の取り組みは評価が高く参考にしている。補助金には限界があり、日々の生活暮らしを見つめてテーマを上げていく予定。①安心安全②健康ではつらつとし

た生活③伝統文化の継承④新しい地域づくり⑤潜在的な課題解決等で協議議論を始めている。

→若い世代、特に女性の参加をどう呼びかけているのか。

- 多数の女性参加をお願いしているが、婦人会がなくなり女性会が組織されていても任期が1年で協議会に参加しても長期的な関わりができない等で女性参加の比率は少ない。今後、検討工夫をしていきたい。

- 理事会構成は女性が1名だが、太鼓保存会の母親、グランドゴルフに参加の女性は多数で、実際フェスティバルには多くの女性参加があった。

→部会の構成はよく練られたと思う。5部会にした経緯は。産業部会の位置付けは。

- 各町区長と理事をお願いして地域の行事を調査して分類した結果が5分類である。
- 産業部会は正に手探りの中から意見を集約して取り組みを進めた。内容的には大したものにはなっていないが、子供たちが喜び、地産地消を推進して在田の特徴がアピールできる内容にしたい。

→宇仁では朝市を開催し、市外への出張販売の朝市も展開して売上の拡大と交流の深化を図っているが、何か工夫はされているのか。

- 岡山県日生等の他県との交流、あるいは日本海地方との交流を検討している。

- 宇仁の芦屋市緑が丘との交流のきっかけは何だったのか。

→明確な説明はできないが交流イベントを繰り返す中で関係が深まった。他所への朝市展開も検討するが、生産量や加工量との兼ね合いが課題として出てくる。

- 校区のまちづくりと平行して町のまちづくりを検討協議している。ベースは農業、里山整備後はイノシカ対策に取り組む予定。市役所に相談に行ったがこれまでの対策の蓄積がない。15年の対策の経験が生かされない。資料集や手引書がないのは残念で考えられない。現地に即した適切なアドバイスが欲しい。

→対策はイノシカを他所に追いやるだけ。業者任せが多い点も事実、対策の資料蓄積もないが、狩猟捕獲の拡大と食肉加工施設等の整備など検討したい。

- これからの開発は市の南部に顕著に出るだろうが、人口増対策からしても市北部の開発はハードソフト両面から必要ではないか。

- 市の第5次総合計画にもインター周辺開発が特別指定されているが議会や行政はどう考えているのか。

→計画には上がっている。ほ場整備等の関連で開発計画の青写真が未だ描き切れていない。いこいの村周辺も含めて開発が検討されていく。

市北部、そして在田からの要望もしっかりと行っている。

- 若者の転出と地域住民の高齢化は深刻な問題であり、安心安全のまちづくりからも介護施設が必要で、市内にバランスの取れた施設配置を要望したい。

→福祉計画の概略説明、H29年に計画更新がされるが、地域の中で見守っていく地域包括システムの充実が必要とされている。

- 5万人都市の再生は『絵に書いた餅』に終わらないか、画期的な方策はあるのか。

→現実からは難しい状況ではあるが、人口増対策は必要であり重要である。今こそ頑張らねばならないと考えている。